

鎌井松石 著 「神風古誌草稿」より

吉田の郷ごう

山田村 古いにしえは小山田村と云いう 元禄八 (1695) 乙亥年きのとい
石薬師驛助郷高役に仰おほせ被こうむりに付き 石薬師宿しやくまで行程
一里五丁あまり

矢田監物居住 応仁二年 (1468) 洛中兵火大乱の砌さい
丹波国より当国に移り山田村に居住したもて代々七千
石を領すという 今、屋敷の旧跡とて馬場ばば、的場まとば、館やみだの
名残なごりあり また子孫、宗对馬守の藩に濱田源左工門とい
う家、これ矢田監物の末孫まつそんなり また川曲郡下箕田村に
矢田新七郎という者系図を所蔵す 由緒ゆいしよあつて下箕田村
に居住す 今矢田の姓四五軒におよべり 山田村には矢
田の姓と、鎮守の八幡こやしろの小社わずかに残れり また系図
の一卷を授さずけし地 矢田ビロという字あなあり

産土神うぶすながみは延喜式内えんぎしきない 加富神社一座かふ 素蓋鳥尊すさのおのみことなり

正徳三 (1713) 巳年神位

加富の森 加富神社の南の方、老松おいまつの古跡をいうなるべ
し

神明一社じんみょう 西ノ宮三社 (左土御前 本社神明 右八王子)
弘治乙卯きのと (1555) の年勸請かんじょうなり

